

## クロアチア Vis 島における日本パビリオンの建設

環境情報学部 3 年 菅原眞子

### 1. 背景

クロアチアの Vis 島では近年過疎化が急速に進行している。本来観光業で発展していた島であるため、夏以外の人出が殆ど無い現状である。ここで 5 年前から日本の東京大学と慶應義塾大学、イタリアのミラノ工科大学、クロアチア大学が協働でこの過疎化に関するシンポジウムを開催してきた。ここでシンポジウムの 5 周年を記念



完成写真

し、地域の人のためのコミュニティスペースとしてパビリオンを建設することになった。また、クロアチアでは石造りの建物が多かったが、シンポジウムに参加している日本をイメージし木造の建物を建設することとなった。



構造体を組み立てている様子

### 2. 試み

小林博人研究会ベニアハウスプロジェクトでは建築の簡易化及びオープンソース化を目指している。今回はそのことを踏まえ慶應 SFC と慶應理工学部、ミラノ工科大学の 3 大学が協働しプロジェクトを行うことを目指した。SFC で設計を行い、理工学部で構造計算を行い、ミラノ工科大学で切り出しを行うことで、人間が動かずにデータだけをやり取りすることで



現地で素材収集を行う

建築が出来上がるというプロセスを踏むことが目標であった。しかし、実際にはある程度どの段階にも SFC の学生が介入したため、今後の改善点も明確になった。

### 3. 実際の活動

8 月末より現地に入り、現地の行政や職人の方とやり取りをしながら基礎

工事を開始した。カットした部材の到着後はすぐに構造体を組み立て、その後の外装などは現地の職人の方と相談しながら施工を行った。外装は主に現地の素材を用いて現地に馴染むような形にしたが、本来のテーマである日本パビリオンは活かしたデザインになった。

### 4. 今後の展望

施工はミラノ工科大学や慶應理工学部の学生と協働で行ったが、まだデータをオープンソース化し建設を行うというコンセプトにおいては不十分であった。今後の課題は海外とのやり取りにおいては時期を意識すること、そして事前加工場などの手配を行っておくことである。



施工の様子



丸窓



無双窓